

(3) 与那覇湾と隣接海域における藻場の分布と有用藻類

当真 武

方法：干潮時の干潟では徒歩により、滞水域においては潜水調査、およびノゾキメガネによって発見種を記録した。湾内においてはstetim の数9、湾外ではA～Fの6点と第4回の調査ではわくとり調査のため12の定点を設けた。

調査期間	昭和50年5月15日～16日	第1回
	10月8日～9日	第2回
	昭和51年2月26日～27日	第3回
	3月28日～31日	第4回

結果：湾内の優占種は海産頭花植物のコアマモであり、湾外ではリュウキュウスガモ、ベニアマモ、ボウバアマモである。マツバウミジグサは両海域に広範囲に分布する。サボテングサ（地方名イシグサ）は湾外に大きな群落をつくるが、湾内にも比較的、大量に分布するが全体的にみて、湾内の植物生育量は小さい。湾内にコママモの群落が形成されるのは大潮時に完全に干上る面積が大きいことを示し、干潟によって環境が激変することを示唆している。湾内のみに生育するクビレツタ（地方名ウギヤフまたはウミブドウ）は湾内の入りこんだ水路の周辺のみ分布することは上述した環境の変化を裏づけるものであろう。

水路の入口近くにある久松漁港の周辺はフクロノリ、アオサの一種、リュウキュウスガモが繁茂する。これらの植物の体長は他の海域に比べ大型であり、栄養塩の豊富さを示すものといえよう。湾外の優占種であるリュウキュウスガモ、ベニアマモ、ボウバアマモ等が形成する。いわゆるアジモ場の占める面積は県内でも中城湾の勝連半島よりの藻場とともに大規模に属する。

St 15付近の造礁サンゴとアジモそしてホンダワラの混生した状態、別の項で述べるわく取り調査で St の付近におけるホンダワラとボウバアマモの混生した状態は他の海域ではみられない景観であり、同海域は宮古島、伊良部島と来間島に囲まれ、季節風による波浪を適当に柔らげられ、モバを形成するのにきわめて良好な自然環境にあることを示唆している。

聞きとり調査によると、有用藻類であるオキナワモズクは湾外に多く、他の海域と同様、モズクの分布域はアジモの分布域と重なり合っている。

表-2 湾内の藻類

St	5月15~16日				10月8~9日			
	種類	生育量	底質	備考	種類	生育量	底質の色	備考
1	コアマモ	根草とも 3360/kg 0.5×0.5m ²		の北近浅 砂の北側 斑状分斥	コアマモ	+	白	
2	リュウキュウスガモ				コアマモ	+		
3	コアマモ				ウミジクサ	+	灰色	
4	クビレヅタ					灰黒		
4	サボテングサ、 ホンダワラ類				サボテングサ	+	"	
5	コアマモ				コアマモ	++		
6	コアマモ	根草とも 215g/ 0.3×0.3m ²			ウミジグサ	+		
7	(クビレヅタ)		タカノハヅタ	r	"			
8	コアマモ		ウミヒルヒ	r				
9	なし	-			リュウキュウスガモ	+	?	食痕多い
					リュウキュウスガモ	r		
					タカノハヅタ	+	灰黒	
					悪天候のため調査欠 なし	-	黒いシルト状	

+++ : きわめて多い + : やや多い - : 全くない
++ : 多い r : 少ない

表-3 湾外の藻類

St	5月15~16日		10月8~9日	
	種類	生育量	種類	生育量
A	①リュウキュウスガモ	① ++	①リュウキュウスガモ	①② +++
	②ベニアマモ	⑤ ++	②ベニアマモ	③ ++
	③ウミジグサ		③ウミジグサ	④ +
	④センナリヅタ		④ウミヒルモ	⑤⑥ r
	⑤カイメンソウ		⑤カイメンソウ	
B			⑥テングノハウチワ	
			⑦マユハキモ	
			⑧ビョクシンズタ	
			①ベニアマモ	①② +
			②リュウキュウスガモ	③⑤ +
			③サボテングサ	④⑦ +
			④マユハキモ	⑥ r
C			⑤カイメンソウ	
D			⑥ヤバネモク	
E			⑦ホンダワラ類	
F	①サボテングサ	① ++	①ベニアマモ	①② +++
			②リュウキュウスガモ	①② ++
			①リュウキュウスガモ	
			②ベニアマモ	
			①リュウキュウスガモ	①~⑥ 久松漁港の + + 打上げ藻
			②ボウヤマモ	
			③ベニアマモ	
			④ホンダワラ類	
			⑤アナアオサ	
			⑥コアマモ	
			①サボテングサ	① +++

